

平成31事業年度

事業報告書

(平成31年4月1日～令和2年3月31日)

1. 概要

平成31年産豆類の作付面積については、大豆は39,100haで前年比1,000haの減少となりました。小豆は20,900haで前年比1,800ha(前年産対比9%)とかなり増加しました。菜豆は6,340haで前年比450haの減少となりました。

豆類の生育については、春先から気温が高く、日照時間も多く推移したことから、豆類の播種や出芽も平年並からやや早く進みました。

6月中旬以降は低気圧等の影響により全道的には雨が降ったものの生育は順調に進み、7月下旬には各地で暑く、少雨や寡照によって生育が緩慢となった地域も見られ、小豆の開花期に遅れが出て着莢数も少なくなりました。8月は降水量が多く寡照となり、生育は平年並からやや遅くなったものの、9月に入ると晴れた日が多く、小豆については生育後半に着莢が多くなり、登熟が遅延し、収穫作業が遅れた一方、菜豆の収穫は平年並みに終了しました。

事業については、赤系金時の安定的な供給を通じて価格の安定に資するため、赤系金時安定供給緊急対策事業を新規の2か年事業として実施しました。また、平成28年の台風禍以降供給不足が顕著な小豆類については、安定供給に向け種子代助成を中心とした、小豆類生産安定対策事業を新規の2か年事業として実施しました。豆類消費啓発助成等事業及び豆類調査研究助成事業については、公募により選定された課題に対し、助成金を交付し、事業を実施しています。

資産運用については、日銀のマイナス金利付き量的・質的金融緩和策により低金利の状態が続いており、債券運用には厳しい環境にありますが、当協会は国内債を中心とした比較的長期の運用となっていることから、おおむね計画通りの進捗状況となっております。

2. 組織に関する事項

(1) 平成31事業年度通常総会

- 1) 開催日 令和元年6月18日(火) 14時30分
- 2) 開催場所 ANAクラウンプラザホテル23階「白樺の間」
- 3) 会員数及び出席者数
正会員数 95
総会出席者数 83
(本人出席39、委任状11、書面議決33)

4) 議決事項

- 第1号議案 平成30事業年度事業報告書、財務諸表、附属明細書、財産目録について
- 第2号議案 平成31事業年度役員報酬について
- 第3号議案 業務方法書等の改正について
- 第4号議案 北海道耕種5団体等組織統合計画骨子案について

(2) 平成31事業年度第1回臨時総会

- 1) 開催日 令和元年11月11日(月) 14時30分
- 2) 開催場所 ANAクラウンプラザホテル24階「白楊の間」
- 3) 会員数及び出席者数
正会員数 95
総会出席者数 86
(本人出席10、委任状27、書面議決49)

4) 議決事項

- 第1号議案 合併契約書の承認について
- 第2号議案 新団体の定款及び主要規程等の変更について
- 第3号議案 現団体の役員任期及び新団体の役員予定者の選定並びに会計監査人候補者の選定について
- 第4号議案 新団体の事業計画及び収支予算書について

第5号議案 新団体の常勤役員予定者の報酬について

第6号議案 常勤役員の退任手当の支給について

(3) 平成31事業年度第2回臨時総会

1) 開催日 令和2年3月24日(火) 14時30分

2) 開催場所 北農ビル19階第5会議室

3) 会員数及び出席者数

正会員数 95

総会出席者数 95

(本人出席11、委任状9、書面議決75)

4) 議決事項

第1号議案 合併後の役員予定者の再選任について

(4) 会員の状況

区分	前期末	合併に伴う動き		加入	脱退	令和元年9月末
		増	減			
正会員	95	—	—	—	—	95

(5) 役員状況

1) 役員数

区分	前期末	当期就任	当期退任	令和2年 3月末	定款に決める 役員の定数
理事	10	—	—	10	8名以上12名以内
監事	2	—	—	2	3名以内
合計	12	—	—	12	

2) 3月末現在の役員

役職名	氏名	就任年月日	任期満了年月日
理事長	飛田 稔章	平成30年6月19日	新団体発足により令和2年3月末で退任
副理事長	伊藤 政光	〃	
専務理事	五十嵐 敏	〃	
理事	飯田 道夫	〃	
理事	八木 英光	〃	
理事	山下 邦昭	〃	
理事	植崎 博行	〃	
理事	高井 一英	〃	
理事	八田 米造	〃	
理事	梶原 雅仁	〃	
監事	北 輝男	〃	
監事	十川 典子	〃	

(4) 職員の状況

区分	前期末	当期増加	当期減少	令和2年3月末
一般職員	4	—	—	4

3. 一般管理に関する事項

(1) 理事会

第1回理事会 令和元年5月27日(月) 13時30分

報告事項 1) 平成30年産道産豆類の需給見込について

議案 1) 平成31事業年度小豆類生産安定運動推進事業の実施計画(案)について

2) 平成30事業年度事業報告書、財務諸表、附属明細書、財産目録について

3) 平成31業年度役員報酬について

- 4) 業務方法書の改正について
- 5) 北海道耕種5団体組織統合計画書骨子案について
- 6) 平成31事業年度通常総会の開催について

第2回理事会 令和元年10月23日(水) 14時30分

- 報告事項 1) 令和元年産道産豆類の需給見込について
- 2) 平成31事業年度上半期事業報告並びに収支報告について 同しく監査報告について

報告事項 3) 資産の運用状況と今後の取進めについて

報告事項 4) 理事長、副理事長、専務理事の職務の執行状況について

議案 1) 令和元年産対象豆類の基準価格並びに価格差補てん対象数量について

2) 公益法人3団体の組織統合について

ア 合併契約書の締結

イ 公益目的事業の追加に伴う変更認定申請

ウ 定款及び主要規程等の変更

エ 新団体の役員予定者及び会計監査人候補者の選定

オ 新団体の事業計画書及び収支予算書

カ 新団体の常勤役員の報酬予定額及び現常勤員の退任手当

3) 第1回臨時総会の開催について

第3回理事会 令和2年3月3日(火)(書面決議)

議案 1) 合併後の役員予定者の再選任について

2) 平成31事業年度第2回臨時総会の開催について

第4回理事会 令和2年3月24日(火) 13時30分

報告事項 1) 令和元年産道産豆類の需給見込について

2) 平成31年度赤系金時安定供給緊急対策事業の実

施報告について

- 3) 令和2年度事業に係る公募結果について
- 4) 資産の運用状況と今後の取進めについて
- 5) 理事長、副理事長、専務理事の職務の執行状況について
- 6) 変更認定申請の状況について

議案

- 1) 平成31事業年度収支見込と決算処理方針について
- 2) 赤系金時安定供給緊急対策事業の実施について
- 3) 小豆類生産安定対策事業の実施について
- 4) 主要規程類の改正について
- 5) 会計監査人の報酬について

(2) 監事会

第1回監事会 令和元年5月27日(月) 11時30分

- 議題
- 1) 平成30事業年度決算監査の実施について
 - 2) 監事監査報告について
 - 3) 平成31事業年度監査計画について

第2回監事会 令和元年10月23日(水) 13時30分

- 議題
- 1) 平成31事業年度上半期監査の実施について
監事監査の結果について(十川監事、監査報告書)
 - 2) 監査報告について

(3) 業務評価委員会

第1回業務評価委員会

令和元年5月20日(月) 13時00分

- 報告事項
- 1) 平成30年産道産豆類の需給動向について
 - 2) 平成30年度赤系金時安定供給緊急対策事業実施報告について
 - 3) 平成30年度小豆類生産安定運動推進事業(安定

生産啓発特別事業) 実施報告について

4) 平成31事業年度事業計画について

審議事項

1) 平成30年度事業報告(案)について

2) 平成31年度小豆類生産安定運動推進事業(安定生産啓発特別事業)実施計画(案)について

3) 規程類の一部改正について

ア 業務方法書の一部改正(案)について

イ 業務方法書細則の一部改正(案)について

ウ 小豆類生産安定対策事業に係る業務方法書の一部改正(案)について

エ 小豆類生産安定対策事業に係る業務方法書細則の一部改正(案)について

第2回業務評価委員会

令和元年10月17日(木) 13時00分

報告事項

1) 令和元年産道産豆類の需給見込について

2) 平成31年度赤系金時安定供給緊急対策事業の取組状況等について

3) 平成31事業年度上半期事業報告について

審議事項

1) 令和元年産対象豆類の基準価格(案)について

2) 令和元年産対象豆類の価格差補てん対象数量(案)について

3) 令和2年度実施計画書(案)～豆事業～について

4. 収支及び財務に関する事項

(1) 収支(経常増減)について

今年度の経常収益については、主に国内債券による運用を図り、運用益は、年間計画103百万円に対して99百万円(計画比96%、前年

同期比94%)となった。

一方、経常費用については、事業費312百万円、管理費9百万円、合計321百万円となった結果、評価損益等調整前の経常増減額は221百万円の減少となった。

特定資産評価損益と償還損益の合計はマイナスの40百万円となり、これらを含めた当期経常増減額は262百万円の減少となった。

なお、利回りの低い債券を売却し、満期償還の債券と併せ財源とし、国内債600百万円(額面)を購入した。

(2) 資産の状況

資産総額は前期末に比べ279百万円の減少となった。減少の主な要因は、事業費が昨年より大幅に増加したことや、資産の評価額がマイナスとなったことによる。

<資産の状況(令和2年3月末日現在)>

単位:千円

	当期末残高	前期末残高	増減
流動資産合計	102,453	121,464	△19,011
保管財産	4,558,500	4,558,500	0
事業基盤財産	1,948,004	1,980,207	△32,203
豆類価格安定対策事業準備財産	830,806	927,963	△97,157
小豆類生産安定対策事業準備財産	318,313	434,836	△116,523
豆類流通円滑化緊急対策事業準備財産	243,933	242,115	1,818
退職給付引当資産	1,524	17,482	△15,958
特定資産 計	7,901,080	8,161,103	△260,023
固定資産合計	7,901,324	8,161,103	△259,779
資産合計	8,003,777	8,282,567	△278,790

注:四捨五入の関係で、各資産の金額と合計は必ずしも一致しない。

5. 事業に関する事項

(1) 平成31年産豆類の作付け及び生育の状況

平成31年産豆類の生育状況については、5月の好天により播種期はおおむね平年並みからやや早く、出芽も同様の傾向となり、作付面積は大豆が前年産よりも1,000ha減少して39,100ha（前年産比98%）となり、小豆が前年産よりも1,800ha増加して20,900ha（前年産比109%）となった。

菜豆は前年産よりも450ha減少して6,340ha（前年産比93%）で、内訳では金時が4,590ha（前年産比89%）、手亡が1,360ha（前年産比112%）となった。

なお、作付指標面積に対する作付面積の割合は、大豆が107%、小豆が95%、菜豆が81%で、菜豆の内訳では、金時が89%、手亡が68%となった。

その後の生育については、6月中旬以降は低気圧等の影響により全道的には雨が降ったものの生育は順調に進み、7月下旬には各地で真夏日や猛暑日が観測され、小雨や寡照によって生育が緩慢となった地域も見られ、小豆の開花期に遅れが出て着菜数も少なくなった。8月に入ると降水量が多く寡照となり、生育は平年並みからやや遅くなったものの、9月に入ると晴れた日が多く気温や日照時間が平年を上回り、降水量が少なく、小豆については生育後半に着菜が多くなり、登熟が遅延し、収穫作業が遅れた一方、菜豆の収穫は平年並みに終了した。

この結果、大豆の10a当たり収量は222kg（平均収量対比94%）で作柄はやや不良となったものの、収穫量は前年産よりもやや増加して86,800t（前年産対比105%）となった。

小豆も10a当たり収量が265kg（平均収量対比106%）の良となり、作付面積の増加もあって収穫量は前年産から大幅に増加して55,400t（前年産比141%）となった。

菜豆は10a当たり収量が200kg（平均収量対比102%）のやや良で、収穫量は前年産から大幅に増加して12,700t（前年産比138%）となった。内訳では金時の収穫量が8,680t（前年産比148%）、手亡が3,210t（前年産比125%）となった。

令和元年産豆類の生産状況

項目 品目	令和元年産					前年産	
	指標面積 h a	作付面積 h a	単収 kg/10 a	生産量 t	10a当 り平均収 量対 比	作付面積 h a	生産量 t
大豆	36,459	39,100	222	86,800	94	40,100	82,300
小豆	22,000	20,900	265	55,400	106	19,100	39,200
菜豆	7,830	6,340	200	12,700	102	6,790	9,230
金時	5,150	4,590	189	8,680	108	5,140	5,860
手亡	2,000	1,360	236	3,210	94	1,210	2,570
合 計	66,289	66,340				65,990	

資 料：「令和 2 年産大豆、小豆、いんげん及びらっかせい（乾燥子実）の収穫量」（農林水産省大臣官房統計部、令和 2 年 2 月 28 日公表）

注 1：10a 当たり平均収量対比とは、10a 当たり平均収量(過去 7 か年の実績値のうち、最高・最低を除いた 5 か年の平均値)と当年産の 10a 当たり収量との対比である。

2：菜豆のうち、金時、手亡以外については、未調査である。

(2) 豆類価格安定対策事業

ア 平成30年産豆類価格安定対策事業

平成30年産対象豆類に係る価格差補てん事業については、対象豆類の平均販売価格がいずれも補てん基準価格を上回ったため発動はなかった。

(参考) 平成30年産対象豆類の販売状況

ホクレン農業協同組合連合会

品名	等級	項目	調 整 販 売				
			数 量 金 額	内 訳			
				10-12月	1-3月	4-6月	7-9月
大正金時	2等	販売計画 (俵)	106,640	35,700	26,700	22,300	21,940
		販売実績 (俵)	106,640	36,900	27,800	13,300	28,640
		販売金額(千円)	3,572,415	1,239,195	925,705	448,625	958,890
		総販売単価(円)	33,500	33,583	33,299	33,781	33,481
		平均販売価格(円)	31,718円 <精算：令和元年 9月30日> ★ 補てん基準価格 23,760円				
北海金時	2等	販売計画 (俵)	2,243	800	600	600	243
		販売実績 (俵)	2,243	800	600	200	643
		販売金額(千円)	74,002	26,465	19,694	6,643	21,199
		総販売単価(円)	32,992	33,082	32,823	33,217	32,969
		平均販売価格(円)	31,215円 <精算：令和元年 9月30日> ★ 補てん基準価格 23,760円				
大手亡	2等	販売計画 (俵)	29,913	8,000	7,300	7,000	7,613
		販売実績 (俵)	29,913	5,500	13,300	4,100	7,013
		販売金額(千円)	703,007	129,403	314,234	96,656	162,714
		総販売単価(円)	23,502	23,528	23,627	23,575	23,202
		平均販売価格(円)	21,864円 <精算：令和元年 9月30日> ★ 補てん基準価格 17,010円				

(注) 合計値と内訳は、ラウンドの関係で一致しない。

イ 令和元年産対象豆類の基準価格

令和元年産対象豆類の価格差補てん事業の基準価格については、令和元年10月17日に開催された第2回業務評価委員会の意見を聴き、10月23日に開催された第3回理事会の議決を経て、10月24日に北海道知事の承認を受けたので、同日付けで、次のとおり公告した。

[基準価格]

品目	項目	規格等級	単位(kg)	場所	基準価格(円)			(参考)基本価格(円)
					補てん基準価格	最低基準価格	積立基準価格	
金時		2等	60	産地倉庫	22,550	17,540	32,570	25,050
大手亡		同上	同上	同上	16,320	12,690	24,570	18,130

ウ 令和元年産対象豆類の対象数量

令和元年産対象豆類の対象数量については、令和元年10月17日に開催された第2回業務評価委員会の意見を聴き、10月23日に開催された第3回理事会の議決を経て、10月31日付けで、次のとおり定めた。

対象数量	130,749 俵
内訳	
大正金時	97,732 俵
北海金時	2,067 俵
大手亡	30,950 俵

エ 平成31年度赤系金時安定供給緊急対策事業

赤系金時の安定生産を通じて価格の安定を図るため、27集荷団体を經由して、1,093戸の生産者が約3,777haに播種した優良種子の代金の一部として助成金94,086千円を交付した。

(3) 小豆類生産安定対策事業

道産小豆類の需給状況の計画的な改善に向けて、関係者が一体となって生産目標面積の遵守に向けた取組を強力に推進するため、平成30年度に引き続き「小豆類生産安定運動推進事業（安定生産啓発特別事業）」を実施し、当該事業に取り組んだ62農協等に対して146,480千円を助成した。

（4）豆類生産流通安定推進事業

豆類の安定的な生産流通に資するため、雑豆に関する関係者間の情報の交換・共有化を図るための会議の開催、雑豆の安定的供給に必要なとなる生産者の意向や、豆類の生産・流通・消費動向等に関する調査を実施（委託）したほか、雑豆の生産目標面積の設定等を行った。

ア 豆類需給安定会議の開催

令和元年9月5日、十勝管内音更町において生産、流通、実需、試験研究、行政等の関係者の参加を得て、一般社団法人全国豆類振興会及び北海道豆類振興会との共催により、令和元年度豆類需給安定会議を開催した。

イ 雑豆の安定的供給に必要な委託調査の実施

豆類の生産目標に関する業務については、「豆類（雑豆）の生産目標面積設定に係る情報の収集及び当該面積の周知に関する業務」を平成31年4月1日付けで北海道農業協同組合中央会に委託（委託額1,000千円）し、令和2年産雑豆に係る作付意向の把握、地域別生産目標面積の策定、当該面積の生産者への啓発に要する費用を委託費として支出した。

また、「豆類の生産・流通・消費動向の調査に関する業務」につい

ては、当該業務を令和元年5月1日付けでホクレン農業協同組合連合会に委託（委託額4,000千円）し、道内における31年産雑豆の生産（作付け及び収穫）の動向並びに全国主要消費地域における雑豆の消費の動向に関する調査に要する費用を委託費として支出した。

ウ 生産目標面積の設定・周知

イの委託調査を通じて得られた情報等を踏まえ、需要に即した計画的な雑豆の供給に資するため、令和元年12月9日付けで令和2年産の雑豆の生産目標面積を設定した。

(5) 豆類消費啓発助成等事業

ア 北海道・豆トークショー2019の開催

令和元年10月5日、豆の日（10月13日）及び豆月間（10月）の協賛行事である「北海道・豆トークショー2019」を函館市のフォーポイントバイシェラトン函館において約160名の参加を得て開催し、「見直そう、豆の力と豆料理」をテーマに豆類の機能性等に関するセミナー及び豆料理の試食会を行った。

なお、一部業務については「業務の実施補助者」（受託者）として選定された株式会社朝日アグリとの間で委託契約を締結し、イベント会場の賃借等に要する費用を委託費（確定額約1,650千円）として支出した。

イ 公募事業の実施

豆類消費啓発助成等事業のうちア以外の助成事業については、平成25年度から公募の方法により実施しているところであり、平成30年12月3日から12月17日にかけて公募要領を当協会ホームページ

ジに掲載し、平成31年2月1日に開催した公募事業等審査委員会において株式会社ブレナイ社ほか1者から応募のあった6課題が平成31年度採択の実施課題として選定され、平成31年4月に助成金を概算払いした。

その後、令和2年3月13日までに事業完了報告書の提出があったので、助成金の額（総額9,393千円）の確定を行った。

実 施 課 題 名	確定額（千円）
飲食店での「北海道ビーンズフェア」の開催	1,500
「北海道ビーンズセミナー」の開催	1,520
～北海道の豆で作ろう～親子で和菓子作り教室	2,125
北海道の豆産地で学ぼう！小学校食育&料理教室	1,295
子育てママ応援！託児付豆料理教室	1,747
幼稚園向け「北海道の豆キッズセミナー」	1,206

(6) 豆類調査研究助成事業

豆類調査研究助成事業については、豆類消費啓発助成等事業と同様、当協会ホームページへの公募要領の掲載による募集、公募事業等審査委員会での審査を経て、地方独立行政法人北海道立総合研究機構農業研究本部（以下「農研本部」という。）から応募のあった3課題、国立大学法人北海道大学1課題、国立大学法人帯広畜産大学1課題が新たに選定された。また、平成29年度以降に選定された農研本部の継続課題2課題についても引き続き助成対象として承認

し、平成 31 年 5 月までに助成金を交付した。

その後、令和 2 年 3 月 18 日までに事業完了報告書の提出があったので、助成金の額（総額 13,680 千円）の確定を行った。

<平成 31 年度新規採択課題>

実 施 課 題 名	確定額（千円）
小豆の耐冷・耐病性に優れる品種開発促進	3,500
菜豆の多収・耐病性に優れる品種開発促進	3,500
畑作地帯での小豆の拡大・導入に向けた作業体系別のコスト指標の策定	1,000
機能性の高い小豆・インゲン豆の蒸し豆開発	980
アズキ落葉病、委凋病および茎疫病を引き起こす病原微生物の LAMP 法による特異的かつ迅速な検出	1,100

<平成 29 年度以降の継続課題>

実 施 課 題 名	確定額（千円）
極多収で加工適性に優れる中生金時品種開発に向けた追肥による倒伏・茎折れ耐性の選抜強化	2,000
DNA マーカー選抜による小豆の土壌病害抵抗性系統の選抜強化	1,600

6. 管理及び運営に関する事項

(1) 資産の運用については、日銀の金融緩和策により低金利の状態が続いており、債券運用には厳しい環境にある。今年度も国内債の超長期債を中心に運用しており、ほぼ計画通りの運用益となった。

(2) 組織整備等の取組については、「耕種基金協会等統合検討 WT」の協議を経て耕種 5 団体の統合については、「一般社団法人」「公益社団法人」の 2 つの法人形態への統合を進めることとし、平成 30 年 6 月に「北海道耕種団体統合推進委員会」を組織し、検討を重ねてきた。その結果、令和元年 10 月に「北海道耕種 5 団体等組織統合計画書」を作成し、同年 11 月に臨時総会を開催し、令和 2 年 4 月 1 日に耕種基金 3 協会は統合し「公益社団法人北海道農産基金協会」として発足するこの承認を得た。

(3) 主要業務実施状況

ア. 総務関係

月 日	場 所	処 理 事 項
4.9	札幌市	北海道耕種団体等統合推進委員会 第 7 回統合部会
4.12	〃	監事監査（決算会計監査）
4.15	〃	北海道耕種団体等統合推進委員会 第 4 回幹事会
4.17	〃	第 4 回北海道耕種団体等統合推進委員会
5.27	〃	第 1 回監事会、第 1 回理事会
6.18	〃	平成 31 事業年度通常総会
7.3,4	〃	内部監査
7.10	〃	北海道耕種団体等統合推進委員会 第 2 回総合部会
7.24	〃	第 5 回北海道耕種団体等統合推進委員会
9.20	〃	北海道耕種団体等統合推進委員会 第 3 回総合部会
10.4	〃	北海道耕種団体等統合推進委員会 第 4 回総合部会
10.8	札幌市	第 6 回北海道耕種団体等統合推進委員会
10.10	〃	監事監査（上半期会計監査）
10.23	〃	第 2 回監事会、第 2 回理事会
11.11	〃	平成 31 事業年度第 1 回臨時総会

12.3,4	〃	内部監査
3.24	〃	第2回理事会、第2回臨時総会

イ. 業務関係

月 日	場 所	処 理 事 項
4.22	札幌市	北海道豆類振興会定期総会
5.20	〃	第1回業務評価委員会
6.27	東京都	全国豆類振興会定期総会
9.5	音更町	令和元年度豆類需給安定会議
10.5	函館市	北海道・豆トークショー2019
10.17	函館市	第2回業務評価委員会
10.24	札幌市	令和元年産対象豆類基準価格の公告
12.11	帯広市	帯広地区懇談会（北海道豆類振興会）
12.25	札幌市	令和元年度農産物検査標準品地方査定会
1.9	東京都	全国豆類振興会新年賀詞交歓会
1.15	札幌市	札幌地区懇談会（北海道豆類振興会）
1.30-31	江別、剣淵	令和2年豆作り講習会（第1班）（日本豆類協会）
2.3	札幌市	平成31事業年度公募事業審査委員会
2.5-6	訓子府,芽室	令和2年豆作り講習会（第2班）（日本豆類協会）